

目的地までのルート把握と公共サインのあり方に関する基礎的研究

日本大学大学院 学生会員 工藤 智也
 日本大学 正会員 横山 公一
 日本大学 非会員 本間 伸哉

1. 研究の背景と目的

公共サインは来訪者や住民等、不特定多数の利用者に対して目的地への円滑な誘導とわかりやすい表記が求められる。こうしたことから、各自治体では近年、公共サインの整備ガイドラインの策定が進められつつある。一方、我々が目的地に到達する際にはサイン以外の地物等も手掛かりとする場合が多い。こうしたことを踏まえ本研究では、神奈川県茅ヶ崎市中心部(JR 茅ヶ崎駅周辺)を対象に、目的地到達のための手掛かり、公共サインの利用実態、迷った際の行動に関するアンケート調査を行い、その結果から今後の公共サイン整備にあたっての基礎的知見を得ることとする。

2. 研究方法

本研究では、目的に示した事項を明らかにするために、以下の2つのアンケート調査を実施した。

(1) 面接・置留アンケート調査

市中心部の代表的な地域資源である開高健記念館、美術館、民俗記念館、サザンビーチの4ヶ所において、来訪者を対象に、面接・置留形式によるアンケート調査を実施した(20年8月1日～8月31日)。その結果、合計249票の回答が得られた。

(2) 郵送アンケート調査

茅ヶ崎市民を対象として、郵送によるアンケート調査を実施した(20年9月25日発送：発送数1000票)。回収率は59.1%であり、591票の回答が得られた。

3. アンケート調査結果の分析と考察

(1) 目的地までの行き方の把握方法

面接・置留アンケート調査の結果から、訪問者がどのようにして目的地への行き方を把握したのかを集計した(表-1)。その結果、全体では「事前に地図で確認(16.1%)」が最も多い一方で、「事前に地図を入手してきた」は4.0%と少ない結果となった。また居住地別にみると、市外在住者は市内在住者に比べて「事前に地図で確認」「事前に地図を入手」した人の割合が共に高い。また、市外在住者の「その他(19名)」の内訳をみると、その約半数が道順を人に尋ねたと答えており、事前に

地図を確認／入手と共に、道順を人に尋ねることが行き方を把握する方法として多いことが分かった。

表-1 目的地までの行き方の把握方法の調査結果

各項目	全体		市内在住者		市外在住者	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
以前から知っていた	153	61.4	136	82.9	17	20.0
事前に地図で確認してきた	40	16.1	11	6.7	29	34.1
事前に地図を入手してきた	10	4.0	1	0.6	9	10.6
まち中の案内地図で場所を確認してきた	9	3.6	5	3.0	4	4.7
カーナビに従ってきた	7	2.8	2	1.2	5	5.9
携帯電話で地図を確認してきた	1	0.4	1	0.6	0	0.0
まち中で地図を入手した	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	24	9.6	5	3.0	19	22.4
無回答	5	2.0	3	1.8	2	2.4
合計	249	100.0	164	100.0	85	100.0

(2) 目的地までのルート上で手がかりとしたもの

面接・置留アンケート調査の結果から、来訪者が来訪時の手がかりとして何を頼りにしているのかを集計した結果を表-2、図-1に示す。

表-2 ルート上で手がかりとしたもの(全体)

各項目	人数(人)	割合(%)
途中にあった案内・誘導サイン	37	14.9
携帯していた地図	33	13.3
通りの名称	29	11.6
概ねの方角・方向	26	10.4
交差点の名称	14	5.6
途中にあった住宅表示板や街区案内地図	12	4.8
人通り・雰囲気	10	4.0
交差点角の建物	8	3.2
公共施設(公園等)	8	3.2
通り沿いの建物	6	2.4
高い建物	0	0.0
神社・仏閣	0	0.0
その他	53	21.3

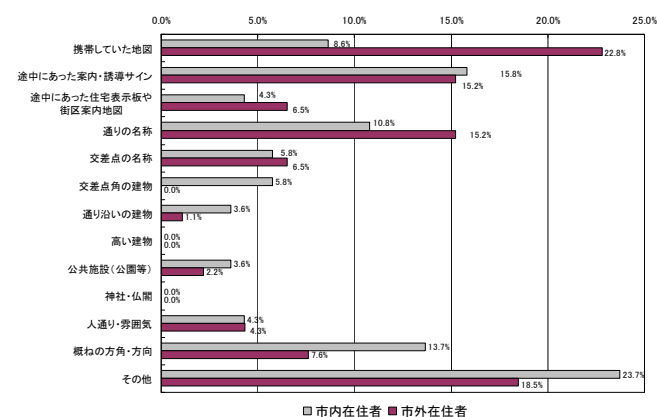


図-1 ルート上で手がかりとしたもの(居住地別)

市内・市外在住者の合計(全体)でみれば、公共の案内・誘導サインを手がかりとした人の割合は「途中にあった住宅表示板や街区案内地図」を含めても2割ほどである一方、「携帯していた地図」「通りの名称」「概ねの方角・方向」などの案内・誘導サイン以外の情報を手

がかりにしている人がそれぞれ1割程度いることが分かった。また、図-1に示すように、市外在住者は市内在住者に比べて、「携帯していた地図」「通りの名称」を手がかりとする傾向があり、また市内在住者は市外在住者に比べて「交差点角の建物」「概ねの方向・方角」を手がかりとする傾向がある。また、公共の案内・誘導サインの利用者は市内在住者、市外在住者と共に15%台であり居住地による違いは見られなかった。

(3) 現状の公共サインの問題点

市民を対象とした郵送アンケートにおいて、現状の公共サインの問題点についての調査を行なった。具体的には、設置場所に関する問題点、表示内容に関する問題点について、調査を行なった。その集計結果を表-3、表-4にまとめる。

表-3 公共サインの設置場所の問題点

各項目	人数(人)	割合(%)
看板の設置場所が悪く、情報が見えにくい	83	14.5
看板の配置数が少なく、情報不足である	152	26.6
看板の配置数が多く、分かりにくい	8	1.4
看板自体に特徴がなく、気づきにくい	228	39.9
看板の設置場所が不適切で、せっかくの情報が活かされていない	55	9.6
特に改善すべき点はない	142	24.9
その他	41	7.2

公共サインの設置場所については、「特に改善すべき点はない」との回答は約25%であり、多くの人が現状の公共サインについて問題を感じている。

また具体的問題点としては、「看板自体に特徴がなく、気づきにくい(39.9%)」が最も多く、「設置場所が悪く、情報が見えにくい(14.5%)」「配置数が少なく、情報不足である(26.6%)」といったサインの設置場所、設置数よりも、サイン自体の誘目性・目立ち度合いを問題となっていることが分かった。

表-4 公共サインの表示内容の問題点

各項目	人数(人)	割合(%)
文字が小さくて分かりにくい	150	26.3
看板に絵文字の表示がなく、分かりにくい	63	11.0
表示されている絵文字自体が分かりにくい	36	6.3
表示されている道路や施設の情報が少なく役に立たない	112	19.6
表示されている道路や施設の情報が多すぎて分かりにくい	11	1.9
表示されている色のコントラストが悪く、分かりにくい	56	9.8
サインに統一感がなく分かりにくい	60	10.5
特に改善すべき点はない	158	27.7
その他	73	12.8

公共サインの表示内容については、「特に改善すべき点はない」との回答は約28%であり、多くの人が現状の公共サインについて問題を感じている。

また具体的問題点としては、「文字が小さくてわかりにくい(26.3%)」「看板に絵文字の表示がなく、分かりにくい(11.0%)」「表示されている色のコントラストが分かりにくい(9.8%)」等、サインの板面デザインについての

問題点が比較的多い傾向にある。

図-3は、公共サインの表示内容の問題点に関する年代別の構成図である。これらから、20代・30代といった若い人では「特に改善すべき点はない」との回答割合が比較的高く、また60代以上の高齢者は、「文字が小さくてわかりにくい」との回答割合が比較的高いことが分かった。

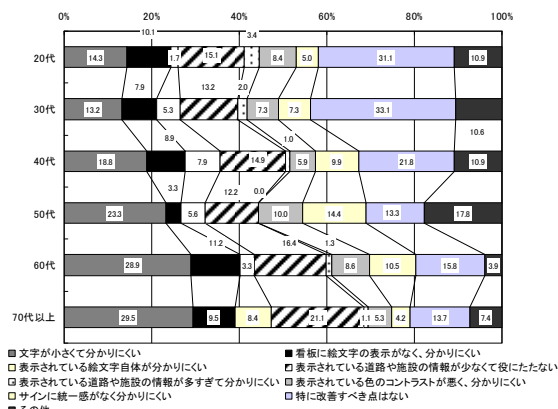


図-2 公共サインの表示内容の問題点(年代別)

(4) 迷いについて

面接・留置アンケートにおいて、目的地までの間に道に迷ったか、迷った際にどのような行動をしたかについて調査を行なった(表-5, 6)。

表-5に示すように、60代以上の高齢者及び市外在住者は、「決められたルートどおりに来ることができた」との回答割合が約4割と比較的低い。

また表-6に示すように迷った際の行動としては「人に尋ねた(9.2%)」「概ねの方向・方角を目指した(9.2%)」の回答割合が比較的高く、特に市外在住者では共に17.3%が迷った際の行動としてこれらを挙げている。

表-5 道に迷ったかどうか

各項目	全体(%)	60歳以上(%)	市内在住者(%)	市外在住者(%)
あらかじめ決められてきたルート・道順とおりに来ることができた	60.2	44.4	67.7	44.4
ルート・道順は決めてはいなかったが来ることができた	21.3	25.9	21.3	22.2
途中で迷いそうになったが、大きな手戻りなく来ることができた	4.0	3.7	3.0	4.9
途中で迷ってしまったが、どうにか来ることができた	2.4	3.7	0.6	6.2
無回答	12.0	22.2	7.3	22.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

表-6 道に迷った際の行動

各項目	全体(%)	60歳以上(%)	市内在住者(%)	市外在住者(%)
迷わなかった	63.9	52.7	76.8	37.0
人に尋ねた	9.2	12.7	5.5	17.3
概ねの方角・方向を目指した	9.2	1.8	5.5	17.3
現在位置を住居表示などで確認した	3.2	7.3	1.8	6.2
間違ったと思った場所まで戻った	1.2	1.8	0.6	2.5
その他	2.4	1.8	1.8	2.5

4. まとめ

アンケート調査結果の分析から、目的地到達のための手掛かり、公共サインの利用実態、迷った際の行動等についてその傾向が明らかになった。

キーワード 公共サイン，ルート把握方法

連絡先 〒274-8501 千葉県船橋市習志野台 7-24-1 日本大学理工学部社会交通工学科 交通景観研究室 TEL 047-469-5507